

(様式第4号)

上田市上下水道審議会 会議概要

1 審議会名	平成28年度(第5期)第8回上田市上下水道審議会
2 日時	平成29年2月15日 午後2時から午後2時45分まで
3 会場	南部終末処理場2階会議室
4 出席者	久保山会長、池内委員、伊藤委員、金井委員、吉川委員、古平委員、鷹野委員、高橋委員、土屋委員、長尾委員、鳴沢委員、本間委員、松本委員、宮岸委員
5 市側出席者	宮澤上下水道局長、城下経営管理課長、滝澤サービス課長、内川上水道課長、松井下水道課長、上原浄水管理センター所長、藤極丸子・武石上下水道課長、矢嶋真田上下水道課長 (以下経営管理課)白鳥課長補佐兼経理担当係長、町田経理担当係長、青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年2月16日

協 議 事 項 等

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 昨年(平成28年)の12月16日以来「上田市上下水道事業経営戦略(案)」について審議を重ねているが、本日で最後となる。
- ・ 経営戦略の完成に向けて引き続き、内容について慎重審議をお願いしたい。

3 議事

(1) これまでの意見・質問への回答について

○事務局より資料1に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(会長) 有収率について、100%に近ければ近いほど良いということだと思うが、例えば90%だとした場合、経営運営に関しての損失というものがあるのか。

(事務局) 損失というか、水を作ってもお金の取れる水がその分減ってしまうということ。使っていただく水の量は同じなので料金自体が減るということではなく、作るお金が余分にかかるということ。本来ならば作らなくてもよい水まで作っているという格好なので、有収率が10%上がれば、10%水が少なくても良ければそれに係るお金がかからなくなる。それが上がったからと言って、収入が増えるということではない。あくまで作る方にかかるお金が減ることになる。

(2) 上田市上下水道事業経営戦略(案)について

○事務局より資料2に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員)(資料2)4ページの職員の年齢構成を見ると、20代の職員数が一番少ないが、こういう職員の人材育成をどのように考えているのか。どこも高齢化でなかなか若い人がいないというのが実情だが、特に水道事業はライフラインでは重要な三要素のひとつであるので、若い人をどうやって育てていって、

いざ何かあった時に対応がとれるよう戦略を立てたほうがよいのではないか。

(事務局) 人材育成については資料2の中でそれぞれの事業ごとに記載されているが、例えば32ページをご覧ください。上下水道局でも非常に人が減らされており、さらに高齢化、退職に伴い、若手への技術継承が喫緊の課題となっていると認識している。熟練技術職員の技術を確実に継承するとともに新たな技術力を確保していく職場環境を整える取り組みが必要であると考えている。具体的には今も、各種研修等への積極的な参加をしており、水道事業、下水道事業含め、若い職員の技術力を付けてもらうよう今後も進めていく。

また、なかなか水道の人材が集まらないという状況の中で、局内部で業務を行っていく上で気が付いた点、事故等の情報の共有を継続して進めていく。

確かに、20代、30代の職員が少ないので、今後市当局とも話をし、若い技術職の職員を採用しながら進めていかねばと考えている。

(局長) 特に技術系職員が、市の職員の中で高齢化が進んでおり、20代の技術系職員が非常に少ないという傾向にある。20代の職員が少ない理由として、平成18年頃から全国的に地方公務員の人数が多いということで、人員削減計画という、ここから10年間でどれだけ削減していくということを全国的に行われ、市でも新規採用職員の抑制ということが行われた。そういうこともあり、20代の職員が非常に少なく、50代の職員が多いという市全体としての傾向があることを御理解いただきたい。

最近だと土木系技師については、全国的に景気が良いせいもあり、なかなか市で採用募集をかけても定員まで達せず、採用ができないという状況にある。市全体としても土木系等の技師の採用について、これからどのように取り組んで行くのが課題となっている。特に土木系の技師40代以降が非常に多く、20代、30代は非常に少ない状況にあるので、上下水道局に限らず、市全体として取り組んでいかなければならないと考えている。

(委員) できる限り技術系職員を養成し、市の方針で人員を減らすということはしょうがないが、今後人員を増やしてもらい、いざという時に間に合わなければ経営戦略を立ててもしょうがないのではないか。

(局長) 全国的に人を減らし過ぎてしまい、上田市でも2年前位に人員削減計画を一旦取りやめ、市の業務自体が県や国から移管されてくる事務も増え、また新たに課題に取り上げる事務事業も増えたため、職員の削減という目標は基本的にはないという方向に転換している。その中で年齢構成等含め、中途採用で30代の職員を雇用するなど工夫をしながら職員の年齢構成のアンバランスを解消しようと取り組んでいる。

(会長) ただ今の件について、特記事項として経営戦略(案)の中に加えなくても、人材育成という項目もあるのでそれでよろしいでしょうか。

全委員了承

(会長) 本日お配りした上田市上下水道事業経営戦略(案)について承認することとしてよろしいでしょうか。

全委員承認

(事務局) 経営戦略(案)につきましては、今後、市の中で見直しを行った後に最終決定し、年度内に長野県へ提出し、その後県から総務省に提出することとなります。決定したところで委員の皆さんにご通知します。

また、上田市ホームページや議会への報告をし、市民への周知を図っていきます。

ご審議ありがとうございました。

4 上下水道局長あいさつ

・ 昨年2月に第5期の審議会委員の委嘱をしてから今日で8回目の審議会となり、その間「料金算定」あるいは「経営戦略」と重要な課題について熱心かつ慎重にご議論いただき、一定の成果を出せましたことに感謝申し上げます。

・ 来年度については、2 回程度の開催を予定しているが、いろいろな意見をいただきながら経営の中に生かしていきたい。

5 その他

○事務局より事務連絡

6 閉会